

特別寄稿

田中辰明氏

お茶の水女子大学名誉教授

日本における バウハウス研究



Das Bauhaus Logo
1922 entworfen von Oskar Schlemmer



はじめに

バウハウスの存続期間は 14 年間で極めて短いものであったが、世間に与えた影響力は極めて大きかった。多くの方がバウハウスについて研究を行い、業績を残した。

日本においても多くの研究が行われた。しかしバウハウスの受け持ち範囲が非常に広いので、研究者の研究対象もさまざまである。筆者は建築学を研究対象としてきたのでバウハウスの建築について焦点を絞りたい。

1. バウハウス概論

バウハウスは 1919 年にドイツのヴァイマールに設立された写真、工芸、陶芸、デザインなどを含む美術と建築の総合的な教育を行う国立の学校であった。その後 Dessau、ベルリンと教育の場を移動し、1933 年には台頭したナチスによって閉校を余儀なくされた。この間わずか 14 年間であったが、教育にあたった教員の豪華さには圧倒される。合理主義的、機能主義的な芸術を目指し、モダニズム運動を行った。

しかしバウハウスの 14 年間の存続期間はヴァイマール

参考文献：1. 田中辰明 ブルノ・タウト、日本美を再発見した建築家。中公新書 2169 2. 田中辰明 ブルノ・タウトと建築・芸術・社会、東海大学出版会 3. Magdalena Droste, Bauhaus 1919-1933, Taschen 4. パウル・クレー著 土方定一、菊盛英夫、坂崎乙郎訳：造形思考、上、ちくま学芸文庫 5. パウル・クレー著 土方定一、菊盛英夫、坂崎乙郎訳：造形思考、下、ちくま学芸文庫 6. ヴァシリイ・カンディンスキー著 宮島久雄訳：点と線から面へ、ちくま学芸文庫 画像：著者提供, Bauhaus コレクション, Pixabay, <https://artvee.com>

シュトゥットガルトで
日本の「味」をお楽しみください。



KU ROSE くらせ

Japanisches Restaurant KUROSE

日本食レストラン 黒瀬

www.kurose-stuttgart.com



Rotebühlstr.50, 70178 Stuttgart ☎ 0711 50530585

共和国の時代と一致する。ヴァイマル共和国はヴァイマルで憲法の草案が作られた事からその名がついている。首都はベルリンであった。

憲法は極めて民主的で女性に参政権が与えられた。バウハウスはこの時に発足した国立の学校であったため、女性の入学志願者が多かった。それまで大学で学ぶ女性は極めて稀であった。

初代校長のグロピウスは予想しなかった事に大いに驚いたが、入学を許可した。その結果女性は織物、染色などの技術を習得し、社会進出を果たした。バウハウスの教員になった女性もいる。

ヴァイマル共和国は民主的な憲法を持つ理想国家のように見えたが、政権がよく交替し、不安定な国家であった。また天文学的なインフレーションが発生し、一般庶民は生活苦にあえいだ。

一方でこれをうまく活用し、利益を得たものもいて、貧富の差が大きくなった時代であった。バウハウスもヴァイマル共和国の光と影の影響をまともに受けた。

バウハウスの教授陣の名声は素晴らしいものがある。中でもパウル・クレー (Paul Klee)、オスカー・シュレンマー (Oskar Schlemmer)、ヴァシリー・カンディンスキー (Wassily Kandinsky)、ライオネル・ファイニンガー (Lyonel Feininger) などはこの時代を代表する芸術家である。これに加え、芸術教育に力を入れた教員がいる。ヨハネス・イッテン (Johannes Itten)、ヨーゼフ・アルバーズ (Josef Albers)、ラスロ・ナホギ・ナギ (László Moholy-Nagy) 等がいた。

ヨハネス・イッテンは最初に教育学を学びそ

の後絵画を勉強している。芸術は天性のものと考えられていた時代に、教育によってある程度の域に達することが可能であったとした。彼らの業績は現在も芸術教育に大きな影響を与えている。

これに加えて初代校長はヴァルター・グロピウス (Walter Gropius)、3代目校長はミース・ファン・デル・ローエ (Ludwig Mies van der Rohe) で、この2名は近代の4大建築家に名を連ねる。こうなると、二代目の校長ハンネス・マイヤーは教育プログラムを作り、自らも素晴らしい作品を残している。

マイヤーは、グロピウスにより、1927年4月に招へいを受け、かつグロピウスの後任校長にグロピウス自身が1928年初頭に指名している。マイヤーは1928～1930年の間ベルリン北部のベルナウに労働組合総同盟の研修学校を設計をしている。(写真①) これはブルーノ・タウトの建築の保全に努めたベルリンの建築家ヴァインフリート・ブレンネ氏により、修復が行われた。



① ハンネス・マイヤー設計のベルナウの労働組合総同盟の研修学校 (筆者撮影)

※本誌の一部または全部を無断で転載・複写する事は禁じます。 参考資料として利用される場合はご連絡下さい。info@nipponip.jp





www.strub1710.com

ヴィノテーク Grand Opening!

営業時間: 全11時～17時 土11時～18時 日13時～17時
 試飲希望の方はご予約をお願い致します

www.hide-wine.com  639 ROKU SAN-Q  wine.639





② ペーター・ベーレンス設計の AEG タービン工場（ベルリン市）1910 年（筆者撮影）



③ ヴァルター・グロピウス設計の片廊下型集合住宅（デッサウ、テルテン）（筆者撮影）

バウハウスは突然ヴァイマルの地に姿を現したのではない。1870 年ころ、ドイツの工業デザインは英国より立ち遅れていた。

1896 年ヘルマン・ムテジウス（Hermann Muthesius）が英国に留学し、「田園都市の考え方、」芸術工芸、工芸学校の思想を持ち帰った。

ムテジウスは 1907 年にドイツヴェルクブンド（Deutsche Werkbund）を立ち上げた。その目的とするところは「芸術家、産業界の企業家、職人の協力を通して、産業製品を発展させること」であった。

すなわちそれまでドイツ製品は英国製品より品質が劣ると考えられていたが、ドイツ製品も輸出にかなう「優良品」にしていくことであった。ドイツヴェルクブンドにはブルーノ・タウト（1910 年入会）、ヴァルター・グロピウス（1912 年入会）も参加し、活発な活動を行った。

ドイツヴェルクブンドは社会主義運動のようにも見られるが、企業経営者もこれを応援した。

例えば AEG の社長であったエミール・ラテナウ、ヴァルター・ラテナウ父子（ヴァルター・ラテナウはヴァイマル共和国初期の外務大臣を務めたが暗殺された）はペーター・ベーレンスにタービン工場（写真②）を建設させ、扇風機などの設計を任せた。ペーター・ベーレンスもドイツヴェルクブンドに属していたし、グロピウス、ミース・ファン・デル・ローエもベーレンスの下で修業を行った。

ブルーノ・タウトがドイツで活躍した時代とバウハウスが活動した時代は一致する。




FEILER
GERMANY

開催日時：
7 月 07 日（金）
7 月 08 日（土）
10：30～15：00

夏の特別販売会 ご案内

ファイラー製品の販売会開催のお知らせです。

会場：ZAB 住所：Rumfordstr. 21 80469 München



* 両日とも商品は取り揃えて置きますのでどうぞゆっくりお出掛け下さいませ。 * お支払い方法は【現金のみ】となります *

FEILER 製品のご注文・お問い合わせは、TTG TAGUCHI Trading 田口まで | ☎ 08122 - 900 638 ✉ Eriko.Taguchi@ttg-de.com

しかしブルーノ・タウトはパウハウスで教鞭をとったこともないし、別の活動のように考えられていた。ブルーノ・タウトは芸術研究会の機関誌「建築プログラム」(“Ein Architekturprogramm”)に建築に際しあらゆる芸術が協調すべきこと、さらに大衆のための建築の試作と展示会の開催が重要であることを訴えた。

タウトは「なぜなら工芸と彫刻、そして絵画の間には境界はなく、すべては一つのものであり、建築をしていくことである」と述べている。

グロピウスは「共に作り上げよう、未来の新しい建築を。それはすべて同じ形態をとるであろう。建築も、彫刻も、そして絵画も」と述べている。明らかにタウトの考えがグロピウスに影響を与えたと考えて良い。

またパウハウス発足にあたり、グロピウスはパウハウス宣言とも言われるマニフェストを発表している。その表紙はライオネル・ファイニンガーによる木版画で、大聖堂が描かれ、その塔の先端には絵画、彫刻、建築の3つの芸術を示す星が輝いている。

ブルーノ・タウトは1919年に著した「都市の冠」でゴシックの大聖堂の塔を描いている。これはグロピウスのマニフェストに影響を与えている。ブルーノ・タウトはパウハウスで講演を行ったことはないと考えられていた。

しかし、最近の調査で1920年5月20日に講演を行っ



④ ヴァルター・グロピウス設計の Dessau のパウハウス校舎 1925 年 (筆者撮影)

たことが明らかになった。ヴァイマルでのパウハウスも弾圧や妨害が入り、1925年には Dessau に移転している。

Dessau は当時ドイツの大工業地帯で労働者の住宅を欲していた。グロピウスは Dessau のテルテンという土地に実験的な住宅団地を残している。決して芸術的なものではなく、一般労働者が住めるような集合住宅群である。ここでは外廊下型の集合住宅の例を示す。

(写真③) このような集合住宅は現在の集合住宅のモデルになった。同じ時期にブルーノ・タウトはベルリンに沢山の集合住宅を残しているし、エルンスト・マイはフランクフルトに労働者用の集合住宅を残している。

その他グロピウスは後でユネスコ世界文化遺産に登録されたパウハウス校舎(写真④)を残している。

ここではカーテンウォール構造を使用し、鉄とガラスの建築を実現した。現在の高層建築のモデルになった建築である。

※本誌の一部または全部を無断で転載・複写する事は禁じます。 参考資料として利用される場合はご連絡下さい。info@nipponip.jp



Mibyo - Das Vitalstudio
Bülowlstr. 9
81679 München
Tel.: 089 / 55 2 88 00 2
Email: info@mibyo.de

ご予約・ご質問など
お問い合わせはお気軽に

① ツボ刺激で
心身リフレッシュ

指圧マッサージ

60分から120分も
凝りに合わせて選べます

完全
予約制



ちょっとお得な割引チケット有!

*チケットの種類・詳細は、当社のHPでご確認ください

指圧 岩盤浴 ヘッドマッサージ
コア・コンディショニング

*団体・企業法人向け特別プランはお問合せください

各種ご提供中のサービスの詳細は、
HPでご確認頂けます。 www.mibyo.de





⑤ パウル・クレーとヴァシリー・カンディンスキーが住んでいた教師館 1925 年（筆者撮影）

またバウハウス館の近くにグロピウスは教師館（Meisterhaus）を残しており、これもユネスコの世界文化遺産に登録されている。ここではパウル・クレーとヴァシリー・カンディンスキーが住んでいた教師館を紹介する。（写真⑤）クレー、カンディンスキーといった個性的な芸術家が同じ屋根の下に住んでいたというのも驚きであるが、実際には二人は非常に仲が良かったそうである。事実二人の著書はお互いに影響しあった事をうかがわせている

2. バウハウスへの日本人留学生

当時バウハウスに留学した日本人には水谷武彦、山脇巖・道子夫妻がいた。この 3 名は帰国後、新建築工芸学院で講師を務め、バウハウス教育の思想を伝導した。

水谷は東京芸術大学教授として後進の指導にあたり、山脇巖は日本大学芸術学部創設に加わり、教授としてバウハウスを参考としたカリキュラムを作り、指導を行った。この

ようにしてバウハウスは日本のデザイン教育に影響を与えた。

また自由学園から山室光子と今井（笹川）和子がバウハウスへ留学を試みたが、バウハウスはナチスの弾圧により揺れ動いていた時期でもあった。その為にバウハウスの予科課程を担当していたヨハネス・イッテンがベルリンで開いた芸術学校「イッテンシュール」で学んだ。

帰国後二人は自由学園工芸研究所を立ち上げ、後進の指導にあたりと同時にバウハウスの影響を受けた工芸品の製作・販売に携わった。

3. 解散後のバウハウス

ミース・ファン・デル・ローエはナチスが政権を取った数ヶ月後 1933 年に厳しい弾圧を受け、苦渋の選択によりバウハウスを閉校した。バウハウスの教授人の多くは主に米国へ亡命し、そこで大きな影響力を持つようになる。

各種印刷

ノベルティ制作等

su design



www.sudesign.eu

チラシ
フライヤー

名刺
8.5cm X 5.5cm

日本定番サイズ

カタログ
パンフ
会社案内

名刺
9.1cm X 5.5cm

ドイツ定番サイズ

折り加工
パンフ

住所印
会社印

ステッカー
シール

グリーティング
カード（メール）
ハガキ

ヴァルター・グロピウスとマルセル・ブロイヤーは建築家として、またハーバード大学教授として建築学を教授する。ミース・ファン・デル・ローエはシカゴで鉄とガラスの超高層建築を建設し活躍した。ヨーゼフ・アルバーはブラック・マウンテン・カレッジで教鞭をとり、ラスロ・モホリ＝ナギは 1937 年シカゴにニューバウハウスを設立している。その他外国へ逃げそこで成功したバウハウス関係者は多い。

しかし全てのバウハウス関係者がドイツを去ったわけではない。ナチスに追われ、海外逃亡を果たしたくてもできなかった人もいた。中にはナチスの犠牲となり処刑されたバウハウス関係者もいる。また自分が生きるために止む無くナチスに迎合してしまった人もいた。



Die Bühne im Bauhaus (1925)

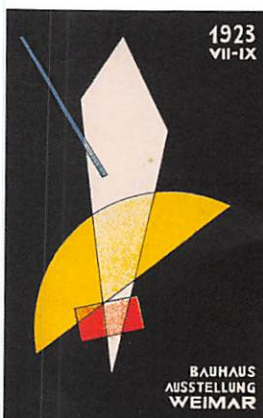
Oskar Schlemmer (German, 1888-1943) (<https://artvee.com>)



⑥ フランツ・エーリッヒ設計の
ブッヘンヴァルト強制収容所の門扉 (筆者撮影)

1929 年にバーゼルで開かれたバウハウスデッサウの展示会ポスターは秀逸である。これはフランツ・エーリッヒにより作られた。ドイツに残った彼は一旦ブッヘンヴァルト (現在はヴァイマル市) の強制収容所に収監される。しかし彼はもとバウハウスにいた人間であることを名乗り、強制収容所の設計に従事する。強制収容所の門扉は氏の作品である。(写真⑥) こうして生き延びたことにより旧東独で活躍することができた。

Postcard on the occasion of the 'Lofty person' exhibition in Bauhaus (1923)
Paul Klee (German, 1879 - 1940) (<https://artvee.com>)



Weimar Bauhaus Postkarten Nr 7 (1923)

László Moholy-Nagy (Hungarian, 1895 - 1946) (<https://artvee.com>)



※本誌の一部または全部を無断で転載・複写する事は禁じます。 参考資料として利用される場合はご連絡下さい。 info@nipponip.de

展示会 パネル	ロールアップ パネル	ピア コースター ORIGINAL	印刷 刺繍 テキスタイル	ドイツ国内お届けします	見本市・展示会の 総合サポートもお任せ	
社用 便箋 封筒	その他 メッセ用品 サービス	エコバッグ	その他 各種印刷物			



⑦山脇蔵設計の三岸アトリエ 1934 年（筆者撮影）



⑧黒部第二水力発電所（筆者撮影）

4. バウハウスの日本への影響

バウハウスは建築のみならず、工芸、テキスタイル、写真、芸術教育などに多大な影響を与えた。建築に限って述べると、バウハウスに留学した山脇蔵は東京中野区にある三岸アトリエ（写真7）を残した。当時としてはガラス多用したモダニズム建築である。バウハウスの校長を辞し、自らの設計事務所を営んでいたグロピウスに師事した山口文象も多くのバウハウス調のモダニズム建築を残した。ここでは黒部の第二水力発電所（写真8）を紹介する。

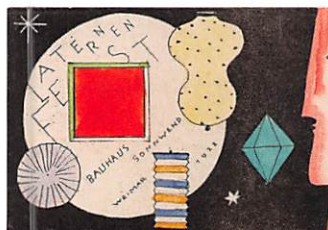
無駄な装飾を廃し、矩形で、ガラスを多用し、陸屋根を用いるバウハウスから影響を受けたモダニズム建築は日本で好んで建設されるようになった。その代表として吉田鐵郎設計の東京中央郵便局（写真9）を紹介する。

おわりに

2022 年 12 月 7 日にドイツの国家転覆を計画していたとして極右勢力のメンバー約 50 名が一斉に逮捕された。逮捕者の中には退役、現役の軍人や裁判官迄含まれていた。

1919 年にヴィルヘルム 2 世がオランダに亡命し、ドイツ帝国は消滅しヴァイマル共和国が発足した。国家転覆計画を計画したメンバーは「ライヒスビルガー（帝国市民）」と呼ばれている。ヴァイマル共和国時代の亡霊が現れたとドイツのメディアは報じた。

確かにヴァイマル共和国は民主的な憲法を持っていたが、発足当初はテロが頻発する、ハイパーインフレが起きる、1933 年にはナチスに政権を渡すなど、問題の多い時代であった。しかしその中で、ドイツが今でも世界に誇りをもって自慢ができるのがバウハウスである。時代の波に翻弄されながらも世界に影響する文化を想像した。



Laternenfest Bauhaus Weimar (1922)
Oskar Schlemmer (German, 1888-1943) (<https://artvee.com>)

07 月 20 日(木)

NIPPONip 無料オンライン・セミナーシリーズ

13 時 00 分～14 時 00 分

当日先着 100 名まで

「在独邦人のための法律問題」

オンラインイベント「日独比較で脳トレ」でもお馴染みの人気講師：神田英明 先生 - 明治大学、弁護士（東京弁護士会） - 情報が入手しづらく分かりにくい「マイナンバーカード」の実態と活用法

▶「マイナンバーカードってなんですか？」という初級的な質問から
実際にどんな風に活用出来るのか、海外在住者の取得の必要性など
大切な情報、目から鱗なお話しが聞ける人気セミナーシリーズ！



参加方法はニュースレターに登録後に参加リンクが入手できます。登録方法は
<https://blog.nipponip.de>
からご確認ください。



⑨ 吉田鑑郎設計の東京中央郵便局（筆者撮影）

特集「特別寄稿」に関連する
内容記事をオンラインでも
ご覧いただけます。

<https://blog.nipponip.de>



お得な情報満載の NIPPONip のブログ、SNS
のフォローをお願いします。

📷 nipponip_germany

📺 NIPPONip-

田中辰明

日本の建築学者、お茶の水女子大学名誉教授

東京生まれ。1963 年早稲田大学理工学部建築学科卒、65 年同大学院理工学研究科建設工学専修修士課程修了、大林組技術研究所勤務。1971 - 73 年ドイツ学術交流会奨学生としてベルリン工科大学ヘルマン・リーチェル研究所客員研究員。1979 年「建築外皮構造の熱的評価に関する研究」で早大工学博士。1993 年お茶の水女子大学生活科学部教授。2006 年定年退官、名誉教授。同年ドイツ技術者協会（VDI）よりヘルマン・リーチェル栄誉メダルを授与される。



主な著書に『防寒構造と暖房』理工図書（1993）、『ブルーノ・タウト 日本美を再発見した建築家』中公新書（2012）、『ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会』東海大学出版会（2014）

現在は YouTube での活動も盛んに行い、数多くのバウハウス、建築についての貴重な動画を公開している。

自身の運営する HP では、日々の報告と日本建築、ブルーノタウトに関する名著・レポートをオンラインでも公開

<http://tatsut.org>



バウハウスについて、また専門の建築についての動画を多数公開中です。



※本誌の一部または全部を無断で転載・複製する事は禁じます。 参考資料として利用される場合はご連絡下さい。info@nipponip.de



automatica

The Leading Exhibition for
Smart Automation and Robotics

27.-30. Juni 2023 | München

同時開催

LASER World of PHOTONICS
munich_i

自動化・ロボット関連の
最先端技術が集結

